

「特別支援学校における授業力向上- 目標と評価を生かす-」

日時	平成29年9月28日(木)	受講者	20名
----	---------------	-----	-----

目的 特別支援学校における授業の目標と評価の一体化を図る授業づくりについて、講義や演習を通じた研修を行い、実践力の向上を図る。

講義 1「授業づくりにおける目標と評価の設定」	特別支援教育センター 指導主事 林 裕子
実践発表「授業づくりの実際」	いわき支援学校 教諭 石井 あかね氏
講義 2「目標と評価の工夫について」	特別支援教育センター 指導主事 大竹 奈保子
演習・協議「目標と評価の一体化を目指して」	特別支援教育センター 主任指導主事・指導主事

<講義1>

子どもの学びに着目し授業を充実させていくために、「授業づくりにおける目標と評価の設定」について考えました。子どもの実態について現在の状況を的確に把握することが土台であること。具体的な目標設定の重要性と新学習指導要領の概要を学びました。

子どもの実態を丁寧に把握し、次のステップを考えよう

授業の目標を子どもと共有しよう

子どもと授業の振り返りをしよう


<実践発表>

「授業づくりの実際 ～目標設定と評価の工夫から～」

いわき支援学校の石井先生から、目標と評価を生かした授業づくりについて、実践発表していただきました。

- 学習内容の系統性を踏まえた目標と指導計画の作成
- 評価規準や評価基準の捉え方と授業における活用

焦点化された授業づくりとPDCAサイクルでの評価の活用について、具体的実践から学ぶことができました。



石井先生のお話の中で、「目標以外の部分にも子どものよさがたくさんあり、それを子どもたちや保護者の方にも何らかの形で伝えていきたい。」という言葉が印象的でした。

<講義2>

【目標は具体的な表現で】

- 曖昧な表現ではなく具体的な言葉で表す
- 児童生徒の様子を示す
- 第3者が見て分かるようにする




授業の目標や手立てが具体的でないと、目標達成の程度や評価も曖昧になり、授業の何を改善すればよいかを考えることが困難になります。

観点別評価（関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解）の整理を通して、学習状況を分析的に捉える観点を学びました。

<演習・協議>

演習では、目標と評価の一体化を目指して、ワークシートで授業案の目標と学習内容、学習活動に即した評価規準について各自整理しました。

協議は、1グループ4人に分かれて行き、「具体的な目標になっているか」「目標と評価のつながりが明確か」「目標と評価が授業の改善につながっているか」などについて、話し合いました。各校の教育課程についても話題があがるなど、活発な意見交換がありました。

受講者の感想

- 目標をどのように設定したらよいか悩んでいたもので、具体例などがあり、参考になりました。（特別支援学校教諭）
- 年間計画と日々の授業をどう関連させるか悩んでいます。演習での観点別評価の整理が勉強になりました。（特別支援学校教諭）
- 学習活動を実現するために、必要な力について細分化していく視点が勉強になりました。（特別支援学校教諭）

